

平成29年度京都市民健康づくり推進会議 摘録

1 開催日時

平成29年12月11日（月）午後1時30分～午後3時00分

2 開催場所

御所西 平安ホテル3階「羽衣の間」

3 出席者

京都大学大学院医学研究科 教授	中山 健夫
京都府立医科大学大学院医学研究科 准教授	栗山 長門
市民委員	駒井 一正
京都市PTA連絡協議会	板野 美由紀
京都市保健協議会連合会	堺 紀恵子
すこやかクラブ京都（（一社）京都市老人クラブ連合会）	藤中 良二
（公社）京都市保育園連盟	嶋本 弘文
（公社）京都市私立幼稚園協会	末廣 敬邦
京都市小学校長会	中村 隆
京都大学 環境安全保健機構 健康管理部門 健康科学センター	石見 拓
京都労働局労働基準部	千田 幸子
京都労働者福祉協議会	山内 裕子
（一財）京都工場保健会	井上 崇
（独法）労働者健康安全機構 京都産業保健総合支援センター	為井 克昌
（一社）京都府医師会	小柳津 治樹
（一社）京都府歯科医師会	岸本 知弘
（一社）京都府薬剤師会	茂籠 哲
（公社）京都府看護協会	中島 すま子
（公社）京都府栄養士会	岸部 公子
（公社）京都府歯科衛生士会	白波瀬 由香里
（一財）京都予防医学センター	鮎子田 睦子
（特非）日本健康運動指導士会京都府支部	並河 茂
京都府国民健康保険団体連合会	長谷川 敏彦
健康保険組合連合会京都連合会	新谷 元司
全国健康保険協会京都支部	布澤 良則
（株）京都放送	湯浅 勝
京都市教育委員会	白波瀬 克則
京都市保健所	村上 宜男

事務局	「健康長寿のまち・京都」推進担当局長	別府 正広
	医務担当局長	谷口 隆司
	保健担当部長	吉山 真紀子
	健康長寿企画課長	塩山 晃弘
	健康長寿推進担当課長	小西 直人

4 摘録

【開会の挨拶】 別府「健康長寿のまち・京都」推進担当局長

【報告・議題】（議事進行は議長である中山教授）

【議題】「京都市民健康づくりプラン（第2次）」等の見直しに向けて

○ 事務局（塩山健康長寿企画課長）【資料5を説明】

健康長寿のまち・京都の取組を、一層促進するためのプランを市民にわかりやすく伝えるため、名称を「健康長寿笑顔のまち・京都推進プラン」としている。名称に「笑顔」を入れたのは、市民の皆様が楽しみながら笑顔で健康づくりに取り組むこと、反対に健康長寿になることで笑顔になること、日々の生活を自分らしく楽しく過ごすことを表現するためである。・第1章はプランの策定について、第2章は健康づくりの現状と課題、第3章は基本理念などのプランの考え方、第4章はプランの取組内容、第5章は推進体制をまとめている。

第1章では「京都市民健康づくりプラン（第2次）」を「健康長寿笑顔のまち・京都推進プラン」として改定することをまとめている。

第2章の「1 本市における人口及び疾病の状況」の「(1) 高齢化の状況」では高齢化の進展や運動機能の低下、生活習慣病が要介護になる主な要因となっていることをまとめている。

「2 市民の健康に関する意識」では市民意識調査の結果の主な内容を掲載している。

「3 これまでの本市における取組状況」では、「健康長寿のまち・京都市民会議」や「健康長寿のまち・京都市内推進本部」の取組、各分野の取組等についてまとめている。

「4 健康づくりの課題に対する考え方」では、「(1) 長寿化の進展」でフレイル予防の観点、地域社会とのつながり、地域の支え合いの中での健康づくりについてまとめている。「(2) 健康増進の取組と生活習慣病の予防」では、若い世代から地域交流を持つことの大切さ、健康増進の視点、若い世代から健康づくりに取り組むことの大切さ、健康づくりは妊娠期（胎児期）から取り組むことの大切さ、民間の活力を活かしながら、誰もが楽しく健康づくりに取り組める環境づくりについてまとめている。

第3章はプランの取組等について記載している。基本理念は「京都ならではの地域力・文化力の強みをいかした健康づくりを市民ぐるみで推進し、健康寿命を延伸し、平均寿命へ近づけ、笑顔でいきいきと健やかな「健康長寿のまち・京都」をみんなで実現します」とする。健康寿命は現在、国において算出方法等が検討されているため具体的な計算方法等は発表されていない。

計画期間は平成30～34年度である。現行のプランの取組方針では、環境づくりを重視しているが、新たなプランでは市民一人ひとりの取組が大切であるため、「(1) 市民が主役の健康づくり」を新たに追加した。「(2) 市民の健康づくりを支える環境づくり」では、健康づくりにつながる生活習慣に変えるためにライフスタイルの転換の促進のほか、健康づくりに大切な地域や人とのつながりの支援、様々な健康づくりの環境整備をすることの3つの柱を設けている。

7ページは市民が主役の健康づくりの代表例をまとめている。京都らしい日常生活の中で取り組むライフステージごとの健康づくりを市民の皆様に参加していただくため、市民向けに発信していくものとしてまとめている。現在、いきいきポイントの取組をしているが、市民の皆様にも広く周知していきたい。市民の皆様への健康づくりの取組を募って表彰する制度を設け、

双方向の取組とすることで健康づくりの輪をより広げられる取組につなげたい。市民の日常生活の行動の中で「食べる」「うごく」「やすむ」といった健康づくりに大切な行動につなげていこうということでこのような構成になっている。市民向けということでわかりやすい表現としており、各ライフステージの代表的な行動をまとめている。

第4章は環境づくりについてである。「推進施策1 京都らしいライフスタイルへの転換を促進することによる健康づくり」では、主な取組として健康づくりの代表例を双方向で発信して、健康づくりの輪を広げていく取組のほか、いきいきポイント・いきいきアプリの取組、文化の中で健康づくりをしていく取組をあげている。

「推進施策2 地域や人とのつながりの中で進める健康づくり」の「①地域や民間団体の自主的な健康づくりの取組の推進」の主な取組では地域における健康づくり事業として、保健福祉センターの保健師等が地域に出向いて、健康づくりに関する話や実技をするなど市民の皆様の実質的な健康づくりを支援する。「②関係機関等との連携による健康づくりの推進」では各区役所・支所で取り組んでいる様々な取組のほか、大学、民間企業等と協働して健康づくりを進めていくこと、地域介護予防推進センター等におけるオーラルフレイル対策を意識した介護予防対策の取組をあげている。「③健康づくり活動に取り組むボランティア等の育成・支援」では、保健協議会、健康づくりサポーター、食育指導員等ボランティアの取組をあげている。「④社会参加の推進と地域共生社会の実現に向けた取組」では、すこやかクラブ京都、シルバー人材センターなどで行っている社会参加の取組や、高齢者の生活を地域で支え合う仕組みづくりの取組をあげている。

「推進施策3 健康づくりに取り組める環境の整備」の「①だれもが健康づくりに取り組めるしくみづくり」では、健康づくりの表彰制度の創設に加え、健康格差の解消に向け、誰もが健康づくりに取り組める仕組みづくりに取り組んでいく。「②心身の状態に応じた健康づくりの支援」では、高齢期の健康づくりの記載をしているが、妊娠期（胎児期）からの健康づくりに関する御意見を前回の健康づくり推進会議でいただいております、今後様々な意見を検討していこうと思う。「③身近な場所で健康診査を受けられる環境づくり・生活習慣病の重症化予防のための環境づくり」では、新たな取組として糖尿病の重症化予防、後期高齢者歯科健康診査をあげている。また、がん検診については目標を50%とし、効果的な受診率の向上の手法を考えていきたい。

第5章は推進体制となっている。「健康長寿のまち・京都市民会議」「健康長寿のまち・京都府内推進本部」「京都市民健康づくり推進会議」の取組を記載している。

身体活動・運動分野では日常生活での身体活動量の増加や定期的な運動習慣をもつこと、ロコモ予防、健康増進の視点、楽しみながら継続すること、歩くことの大切さなどを議論している。

たばこ分野では「1 受動喫煙の防止」において、国で受動喫煙防止対策を罰則付きの規定に強化するという法案が検討されていることから、本市においても受動喫煙の対策について取組を強化していく。「2 未成年者の喫煙防止」「3 妊産婦の喫煙防止」「4 成人の喫煙率の減少」についての取組を記載している。また、加熱式たばこも健康に悪影響を及ぼす可能性が高いことから従来のたばこに準じた取扱いとすること等について議論していただいている。

飲酒分野では「1 未成年者の飲酒防止」「2 妊産婦の飲酒防止」「3 飲酒習慣のある者に対する適正飲酒の推進」についての議論をしていただいている。

口腔保健分野については、今回計画として新たに策定するものとなる。そのエッセンスを本プランの中にも入れていくことになる。歯科保健医療に関する課題として、歯と口の健康が全

身の健康、そして健康寿命の延伸につながることやそのために口腔保健の維持が大切であること、オーラルフレイル対策など7つのポイントをあげている。

(質疑応答)

○ 京都府看護協会（中島専務理事）

資料5の「4 健康づくりの課題に対する考え方」の「(2) 健康増進の取組と生活習慣病予防」のところで「意識調査の結果では、全体として、健康づくりの意識は高まっていますが、なかでも若い世代の意識が他の世代に比べ低くなっています。」とある。一般的に「なかでも」という言葉を使う時は、若い世代の意識がもっと高まっている時に使うものなので、この使い方には違和感がある。

○ 事務局（塩山健康長寿企画課長）

「一方で」等表現の方が適切だと思うので、訂正する。

○ 健康科学センター（石見教授）

「笑顔」という言葉が入っている理由を明示した方が良い。

「第2章健康づくりの現状と課題」についても「1 本市における人口及び疾病の状況」の部分に記載するのか、「4 健康づくりの課題に対する考え方」の「(2) 健康増進の取組と生活習慣の予防」の部分に記載した方が良いのか、どちらが適切なのかと考えている。

「健康を増進し、がん、心疾患、糖尿病などの生活習慣病を予防するためには、若い世代からの正しい生活習慣の確立と健康づくりが大切です。」とあるが、今回はこれまでの疾病予防という点だけでなく、健康増進という点を強化した方が良いと思う。

○ 事務局（塩山健康長寿企画課長）

健康づくりは続けていくことが大切であり、そのためには楽しくなくては続けられないという、ご意見をいただいているので、そのあたりのことを明記したい。

○ (一社) 京都府医師会（小柳津理事）

「4 健康づくりの課題に対する考え方」の「(1) 長寿化の進展」ではフレイル予防について記載があるが、2025年には4人に1人が認知症になる時代が到来するため、認知症の人をみんなで守っていきましょうということをどこかで触れた方が良いと思った。

○ 事務局（塩山健康長寿企画課長）

取組の中に表現を入れるように検討させていただければと思う。

○ (公社) 京都府栄養士会（岸部会長）

胎児期は体の組織を整える時期になる。生まれてからは機能を高める時期になる。フレイルの問題も最初はオーラルフレイルの問題、つまり食べられなくなることが問題となる。離乳食の時期から上手に食べられる工夫をしておかないと生涯、きちんと噛んで食べる機能が身につかない。その機能を高める時期が青少年期だと思うが、その時期に自分が食べなければいけない質・量の食事をしっかりと知ることが重要である。どのような質・量の食事を選ぶかは、自己責任であり、青少年期に自己責任を負うという教育方針を持たなければいけないと思う。壮年期・中年期には自己責任を維持する時期だと思う。健診の受診や食べ過ぎに注意することも自己責任になる。健康は社会で守っていくとともに、個人が自己責任を果たすものであるという視点があると良いと思う。

○ 事務局（塩山健康長寿企画課長）

前回のプランでは、健康づくりに取り組むことのできる環境づくりの取組に重点を置いていた。しかし、今回は市民の皆様健康づくりに取り組んでもらわないといけないと思っており、そこで7ペ

ージで市民が主役の健康づくりの代表例を示している。

○ **中山議長**

義務教育の時点でヘルスリテラシーを高めていくことが必要だと思う。問題に直面した際に、自ら責任を負っていくということを子どもの頃から見につける必要があると思っている。そういった視点が入ると良いと思った。

○ **事務局（塩山健康長寿企画課長）**

京都市では子どもの頃からの食育に力を入れている。本プランの中でもどこかにそういった視点を入れたいと思う

○ **健康科学センター（石見教授）**

市民が主役の健康づくりの代表例について、「楽しくうごく」の部分はライフステージごとに取組が分かれているが、「いっしょに食べる」では取組がどの世代でも同じものとなっている。義務教育段階や大学の段階で食の基本を教えること、その後に安定的にその基本を継続することといった形で表現するなど、ライフステージごとに分けてもよいと思う。

○ **（公社）京都府栄養士会（岸部会長）**

3食食べないといけないことを知っていても、実行が伴わなければ体は良くならない。難しいことをいっても実行できないので、実行できることから記載していけると良いと思う。

○ **事務局（小西健康長寿推進担当課長）**

食育については本プランの中にどこまで具体的な記述ができるかわからないが、食育の情報はホームページ等様々な媒体を使用して、具体的なメニュー等を提案している。そういった部分も含めた全体で取組を進めていきたいと考えている。

○ **（一社）京都府歯科医師会（岸本理事）**

社会に出てからが一番大事な時期であると思っている。大学までは教育の機会があるが、社会に出ると様々な負担がある中で、食事を含めた健康に気を使えなくなると思う。健康診断も学校までは機会が保障されているが、社会人になると会社によっては保障されないこともある。行政でも助成や補助等を活用しながら、企業に働きかけていってほしいと思う。20代、30代の企業に属した若い世代に働きかけていけると良いと思う。

○ **京都市小学校長会（中村会長）**

健康を考える時に一番気になるのは教職員の働き方である。月100時間を超える残業をしている教員は良くいる。ワークライフバランスも推進していこうと思っているが、難しい局面がある。本プランでも雇用されている人の健康という視点があると良いと思う。

○ **健康保険組合連合会京都連合会（新谷常務理事）**

たばこ分野の骨子案には受動喫煙に焦点が当てられているが、プランの本編では受動喫煙には触れられていない。京都という都市の性格上、条例で日本一厳しい規制を設けてもよいと思っている。ただ、プランの中でそのことに触れるのは問題があると思うが、受動喫煙に対する取組というのは環境を整えるという意味で非常に重要であるので、記載してはどうか。

○ **事務局（塩山健康長寿企画課長）**

プランの本編に各分野の骨子案の内容を反映できていない状態なので、これまでのご意見を踏まえ、今後反映していきたいと思う。

○ **（一社）京都府歯科医師会（岸本理事）**

先ほど、パブリックコメントの際には表現を変えるといった話があったと思うが、ベースになるのは最もページ数が多くなるであろう本冊子だと思う。そのため本冊子を十分に検討して

いく必要があると思っている。パブリックコメントでは拾いきれない部分で、本冊子としては重要な部分が出て来ると思うが、そのあたりはどう検討していくのか。

○ 事務局（塩山健康長寿企画課長）

パブリックコメント用とプランの本編用をそれぞれ作っており、各部会の委員の方や本会議の委員の方に両方をお示ししたいと思っている。

○ （一社）京都府歯科医師会（岸本理事）

本冊子にまだ反映できていない部分があるとのことだったが、スケジュールが非常にタイトになってきている中で、そうであろうという含みのもとで検討して、できあがって違っていたら、後戻りできないので、そのあたりを注意していただければと思う。

○ NPO 法人日本健康運動指導士会京都府支部（並河副支部長）

ロコモ予防に取り組むということで、一つの方針が決まったと思う。医師会でも整形外科学会が非常に熱心にこの問題に取り組んでいるが、そのあたりの連携について今後どのように進んでいくのか伺いたい。

○ 事務局（小西健康長寿推進担当課長）

既に医師会の方とは連携しながら取組を進めている。具体的には、京都市のいきいきポイント等の取組との連携やアプリ、ポータルサイトでの情報発信のほか、独自でロコモ予防用の体操のリーフレットも作成しているため、新しく改訂版をつくり、本プランと連動し、医師会とも連携しながら、あらゆるイベントを通じた形で取組を進めていきたい。

○ NPO 法人日本健康運動指導士会京都府支部（並河副支部長）

前回リーフレットを作成した際には、医師会が関与していなかったこともあったと思うが、今回はそのあたりをきちんとしていただいて、良いリーフレットを作ってもらいたい。前はリーフレットがすぐなくなってしまい、全然行きわたっていなかったと思うので、今回は配布方法等をよく検討してほしい。

○ 事務局（小西健康長寿推進担当課長）

前回作成したリーフレットの在庫がなくなってきたので、臨時に増刷して、近いうちに各関係機関に送る予定となっている。ただ、現在のリーフレットをずっと使っていくのではなく、改めて作りなおしていくことになると思う。

○ 健康科学センター（石見教授）

「推進施策3 健康づくりに取り組める環境の整備」の「②心身の状態に応じた健康づくりの支援」で、今後妊婦や若年層に関する記述を加える予定としていたが、ここに障害者や糖尿病で十分に動けない人の視点も入れた方が良いと思う。

市民が主役の健康づくりの代表例では、「楽しむ」の部分では「まちを歩いて、京の歴史文化・芸術を楽しんでいます。」となっているのに対して、「楽しくうごく」では「ウォーキングを続けています。」というような表現となっており、京文化を生かす視点がないようである。もう少し工夫をしてもらえたらと思う。

「学校」と書かれている部分と「学校・教育機関」とされているところがある。そのあたりの表現を統一してほしいと思う。

企業や経営者に働きかけなければ、20代から40代に働きかけられないので、啓発活動や健康経営をすることで経営に反映されるような仕組みを考える必要があると思う。例えば、健康経営に関するチェック項目をチェックしてもらい、チェック項目が満たされていたら京都市のホームページに記載するなど、健康経営を促す仕組みと健康経営をすると会社が儲かるとい

う仕組みを伝えていかないといけない。その部分を検討していただきたい。

○ **事務局（塩山健康長寿企画課長）**

「②心身の状態に応じた健康づくりの支援」については障害のある方の健康づくりは大切であるので、検討させていただければと思う。

○ **事務局（小西健康長寿推進担当課長）**

健康長寿のまち・京都市民会議で健康づくりに取り組む市民や団体への表彰については議論いただいているが、企業への表彰についても考えていきたい。

○ **京都府立医科大学大学院（栗山准教授）**

リーフレットについて、もっと読みやすくしてほしい。年代を3つに分けて、それぞれについて新規と継続を記載してあり、それに対する目標を書くという3つの事柄を飲酒、たばこ、口腔保健がそれぞれのレイアウトで書いている。レイアウトをどれかに合わせて、読みやすいリーフレットにしてほしい。

○ **（一社）京都府歯科医師会（岸本理事）**

最近、「医療的ケア児」が問題視されている。現時点で問題になっているものだけでなく、今後数年のうちに問題になってくるであろうことも単語として含めた方が良い。そのため「医療的ケア児」という言葉をどこかに含んでいただくことが大事かと思う。

○ **事務局（小西健康長寿推進担当課長）**

障害の分科会は設けていないので、飲酒や口腔保健など各部会において、その観点から取組を進めていく。それぞれの分野の中にそういった概念を盛り込んだ形で検討していきたい。

○ **事務局（塩山健康長寿企画課長）**

京都市では障害のある方の施策の計画を立てており、その中に障害のある方の社会参加やスポーツの振興等の分野を取り扱っている。その計画との関係もみながら検討していきたい。

○ **健康科学センター（石見教授）**

障害について考えることは健康について考えることのシンボルになる。健康とは一人一人違うものになるため、それぞれにとって健康な状態というのをそれぞれが考えましょうというメッセージになると思うので、そのようなことをどこかに記載してもよいと思う。

○ **京都市 PTA 連絡協議会（板野副会長）**

総合支援学校に来ている子どもたちの中にも全然動けない子どももいれば、多動の子どももいる。そういった子どもたちの姿を知ってもらって、温かい目で見てもらえると、その子どもたちも健康づくりを十分にできるようになると思う。医療的ケア児についても、昔は家にいたような子どもたちも、看護師等がついて学校に来れるようになったのだが、半分くらいは母親が送迎したりしているので、母親の健康も大事になってくる。医療的ケア児の抱えている病気や障害などの理解も必要だが、子どもたちのありのままの姿を理解することでもっと社会参加しやすくなるので、記載してほしいと思う。

○ **健康科学センター（石見教授）**

地域のコミュニティがあることや地域のコミュニティを活かして障害のある子どもを守っていくなどの記載があってもよいのではないかと思う。

○ **事務局（塩山健康長寿企画課長）**

今回のプランでキーワードになっているのが、地域コミュニティのつながりをしっかり作っていき、その中での健康づくりをしていくことであると思う。

○ **（一社）京都府歯科医師会（岸本理事）**

京都市が1000年位、都市形成が崩れていない都市であるからこそ、できあがっている地蔵盆や町内活動があるのだと思う。そのことは健康を考えていく時にも当然大事なことであるが、その当然のことを文字にすることで改めて気づくこともあると思う。

京都市が日本で一番厳しい規制を設けてはどうかという話があったが、それに賛成である。そうした規制は京都ぐらいでしかできないと思っている。こうした機運が高まっている中で実施してもらおうと京都市民としては、誇りに思えるだろうと思う。セーフティネットについても同様で、災害を予防するために普段の生活が重要になってくる。

○ **事務局（別府健康長寿のまち・京都推進担当局長）**

「健康長寿笑顔のまち」という市民運動を広げようとしているが、これより以前に始まった「歩くまち京都」と環境分野の「Do you Kyoto」という運動も最初は市の呼びかけもあったが、関係者や市民が活動を始め、京都で広く浸透していった。このように京都の方は取り組み始めると非常に大きな力を発揮する。「健康長寿笑顔のまち」も市民や関係団体、行政も含めた運動になるように進めたいと思う。

○ **健康科学センター（石見教授）**

大学がたくさんあることも京都らしさの一つだと思う。従来の文化を活かしながら、地域ネットワークを活かし、大学という場でつながって様々なことができると思う。そのことは具体的にやっていきたいと思うし、市にバックアップしてほしい。

京都大学では今年度から「Healthy Campus 運動」というものを立ち上げ、大学から健康増進の新しい取組を発信していこうとしている。その運動のイベントとして「WALKING CHALLENGE WALK TO THE MOON」を実施した。これは京都大学に在籍する学生や教職員とその友達や家族等中心に2,000人くらい集めて、毎日8,000歩くらい歩くと合計すると月まで届くようになっている。初めての試みで、募集期間も短かったため、結果として登録したのは860人程度であったが、京都大学でちゃんと登録をして歩数を測ったというのは非常に大きな成果だと思う。様々な企業にも協力をいただき、目標を達成した人には抽選で景品を贈呈した。「Healthy Campus」というメッセージをまずは大学の人たちに知らせようということで、市にも協賛いただきキックオフフォーラムを開催したり、表彰したりした。これを京都市内の他大学に声かけして、2月に「Healthy Campus」のコンソーシアムを開こうと思っている。これが徐々に大学に広がってきた時に、会社や地域でも一緒に参加してもらったりもできるのではないかと考えている。α-Station や KBS と連動して広げるのもよいのではないかと考える。

○ **京都府立医科大学（栗山准教授）**

第4章の推進施策1にある「京都らしい」という言葉を思い切って、変えてはどうか。「京都ならではの長年にわたる地域コミュニティに基づく」などの京都の特色を出した方が良い。

○ **事務局（塩山健康長寿企画課長）**

そうしたことも含めて考えていきたい。

○ **（独法）京都産業保健総合支援センター（為井副所長）**

京都産業保健総合支援センターの主な取組に、仕事と治療の両立支援がある。定年が延長されたため就労者の年齢層が上がっており、何らかの慢性疾患を抱えた労働者が多い。そうした中でも企業の支援を受けながら、働いた方が健康に良いということを記載できないか。

若年労働者に対してはメンタルヘルス対策が一番の問題となっている。前年度から企業に対

してセルフケア研修を行っており、また、50人以上の従業員を抱える事業所にストレスチェック制度が義務化されて2年になる。それらを踏まえた職場環境改善に取り組んでくださいということを企業へはPR出来るが、市民へはどうしたら良いかと思っている。

○ 事務局（塩山健康長寿企画課長）

市民が主役の健康づくりの代表例の「シニア・シルバー世代」に「体力に応じて、週3回、今まで勤めていた会社で働いています。」とあるが、これは環境面ということになると思う。

○ 事務局（小西健康長寿推進担当課長）

がんの治療を受けている人に対しても国の方で様々な検討がされており、早期発見・早期治療ということで予防の方に力を入れているが今後は京都市としてもそういったところについて取組をしていきたいと考えている。

○ 事務局（塩山健康長寿企画課長）

メンタルヘルスについても重要な視点なので、本冊子の心身の状況などの記載のある部分に記載するかなど検討させていただければと思う。

○ 中山議長

現在、国の方でデータ情報の活用について大きく変化してきており、胎児の時からデータを蓄積し、パーソナルヘルスレコードのような形でいずれ自分の健康状態のデータや診療データにアクセスできるようになると思う。パーソナルヘルスレコードについて国が様々な書類に記載しているので検討していただければと思う。診療を受ける際もそのデータを基に医師とのコミュニケーションを進めるということもあると思う。また、ライフコースデータの最後は終末期ということになるが、京都市では終末期議論はどこで行っているのか。

○ 事務局（別府健康長寿のまち・京都推進担当局長）

人生の最終ステージの住まい方、ご家族との関係などの課題は、それぞれの人に考えていただくことが第一歩と考えており、具体的に総括したセクションで行っている状況ではない。

○ （一社）京都府医師会（小柳津理事）

2025年に団塊の世代が後期高齢者になる時に高齢化率がかなり上昇し、多くの人がなくなる。それに対して、地域医療構想というので別途の調整している。地域包括ケアシステムでは、概ね中学校区を単位とした地域で病気の抱えた人をみんなが支え合って住み慣れた場所で最期を迎えましょうということである。終末期の医療というのは非常に敏感な問題であり、それぞれの方の考え方をくみ取っていく段階で、地域差もある。京都府医師会の地域ケア委員会というもので地域包括ケアシステムのあるべき姿や向かうべき道について、会長の諮問事項として取り扱っている。地域包括ケアシステムは在宅医療と表裏一体となっており、在宅医療というのはみとりの問題など様々なことを議論していかないといけない。ただ、慎重に進めていかなければならないところでもある。他のセクションでも終末期の議論など多くの考えを皆さんと共有しながら進めていっている段階である。

○ 京都府立医科大学院（栗山准教授）

推進体制の中に京都市の保健所の役割が書かれていない。終末期医療や障害者医療など全てを盛り込むことは難しいので、平成34年度までにできることは載せて、そうでないことも次につながるようなキーワードは盛り込んでいった方が良いのではないかと思います。そのひとつで京都市保健所が書かれていないのは何故かと思った。

○ 事務局（塩山健康長寿企画課長）

本プランが京都市から発行するということで、あえて書いておらず、その他の関係のある会

議体等について紹介している。

【閉会の挨拶】 谷口医務担当局長

(閉会)